

# 雷の子

カトリック町田教会  
町田市中町 3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

## いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



「わたしは無原罪のやどりです」聖地ルルドに聖母マリアがベルナデッタの前に姿を現され言葉を交わされた。1858年2月11日～7月16日まで18度の御出現があった。16度目(3月25日 - お告げの祝日)に初めてご自分の名を言われた。

### 四旬節を迎えて

主任司祭 高木賢一

私は主任司祭になって以来ずっと、よほどのことがない限り、葬儀のお通夜においてはイザヤ書五十五章八～十一節を朗読することにしては、なぜなら、イザヤ書の文脈は、本来別なことを言わんとしているかもしれないが、それでも人間の生涯及びその在り方に重なり合うと思われないからである。

概ね、以下のような内容で  
ある。  
「雨も雪も、ひとたび天から降れば、むなしく天に戻ることはない。  
それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ、種蒔く人には種を与え、食べる人には糧を与える。  
そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も、むなしくは、わたしの元に戻らない。」

それは、わたしの望むことを成し遂げ、わたしの与えた使命を必ず果たす(日本聖書協会・新共同訳より)  
雨の一滴、雪の一かけらは、人の目からするならば一瞬の存在であり、特に春の淡雪は儚さの象徴でさえあるので、そんなことを思い浮かべながら、雨や雪が降っているさまをポーツと眺めていると、時として、その同じことの繰り返しだが、人間が悠久の昔からあてもなく続けてきた生活の営みの繰り返しを重ね合わせ、虚無の片鱗が垣間見えたような思いにとらわれることはないだろうか。  
かつて私は、日々の営みの繰り返しに疲れてくると、そういつか思いにとらわれるばかりで、しばらく虚しい思いの淵から脱け出すことができない時期があった。  
そんな中で、偶然巡り合ったのが、このイザヤ書の言葉だったのである。  
今でも、その時の場面を思い出す。昨日のように克明に記憶しているが、この言葉がその時の自分の腑に落ち、どれ程慰めや励ましになったか、はかり知れない。  
一瞬一瞬は、その瞬間だけを見つめるならば、確かに、時は徒に繰り返されるだけの流れのようにしか見え、虚

しい思いが募るだけかもしれないが、その一瞬一瞬が積み重ねることによって初めて、時の流れが生まれることを実感できるならば、「一瞬」という時が持つ意味は自ずと変わってくると言えるであろう。  
そんな体験が、この箇所にこだわるようになった理由である。  
前置きが長くなってしまっただが、今迎えている四旬節の主旨とイエズスの死と復活という一連の出来事を、意識して見つめ直して見た時、そこには、このイザヤ書の言葉の内容が重なり合うように思えてならないのである。  
四旬節を通して、私たちが思い起こすべきことは、一人の歩みにおいても、人間の歩みにおいても、神が絶えず関わり続けていたし、これからも私たちに関わり続けるという旨の内容であると言える。  
しかし、その在り方は、いわば「透かし絵」のように曖昧に浮かび上がってくるだけであることも事実であろう。  
その「透かし絵」のようにしか見えない神の働きを決定する、何人も疑いの眼差しを向けることができない「しるし」に変えてくれたのが、イエズスの死と復活という出来事と言っても差し支えない。

イエズスが、自らの生涯を十字架上で苦しむ姿、弱々しい姿にあっても、その在り様に身を任せることで、父である神への全面的な帰依の姿を示したからこそ、その姿に対する父である神の応え、即ち、イエズスの復活という出来事は、父である神の前に何ら誇るものも、また、神の似姿としての歩みにも自信を持たず、不安に揺れる、時には虚無という絶望の淵に追い込まれてしまふ私たち、虚しく終わっていくようにしか思えない私たちがとの接点を持つことになったのではないだろうか。  
神の眼差しから見つめた人間の在り方は、雨の一滴や雪のかげらのような儚い存在かもしれないが、それでも長い長い時間の積み重ねの中で、また、日々出会う人々たちとの関わりの中で、自分自身が自覚している役割、そして、自分で思ってもみなかった役割を担って生きていくということを、私たちは忘れてしまつてはいけないうるだろうと思う。今年の四旬節と復活節は、改めて、「雨も雪も、ひとたび天から降れば、むなしく天に戻ることはない」という言葉を黙想し、味わう季節にしたいと考えている。

運営委員会

運営委員会の3つの活動

運営委員会議長 久保田 伸

運営委員会はどんなことをやっているのという質問を聞きます。私は運営委員会の活動は3つの層から成り立っていると考えます。

一つは教会の行事をキチンと実行していくことです。

信徒が関わる教会の大きな行事には、復活祭、納涼祭、バザー(隔年)、クリスマスがあります。これらの実行主体について、復活祭のように実行委員会方式で行ったり、納涼祭は活動グループ主体で実行を依頼するというように、実行主体を考え依頼し、教会行事を進行します。

二つ目は教会内の色々な活動が円滑に行くように調整・統合することです。このために運営委員から教会業務、地域ブロック、活動グループ、渉外の担当を決め、各グループからの要望を運営委員会に持ち帰って報告してもらったり、運営委員会で決めたことや依頼事項について各グループにお話ししてもらい、教会全体の活動がバラバラにならないようにしていきます。また、典礼、財務、施設管理、生涯養成の各委員会から活動状況について報告いただき、

運営委員会として決めなくてはいけないことを討議します。教会で10万円以上のお金を使うときは、運営委員会の承認を必要とすることになっていきますので、お金の使い方も考えます。

三つ目は、宣教共同体としての教会の活向上につながるように、教会活動の方向性を考えることです。今年の例で言うと、養成委員会の立ち上げ、教会の運営規約について、規約小委員会と一緒に討議し規約にまとめる、厨房横の部屋の段差の問題から始まり厨房の安全性についての討議、聖堂の会衆席の増加、ミサボランティアの発足、活動名簿の発行をどうするかなど、色々な討議を運営委員会で行いました。

すべては、町田教会の信徒の活動がより深まること、多くのかたが教会活動に参加してもらえるようにするために、運営委員会で知恵を絞って討議しています。最後に、運営委員会の活動は何を討議しているのかという透明性が大切と思っています。運営委員会で何か勝手に決めているということにしてはいけないと思います。この

**イラスト JOCS 町田カトリック**

JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)はアジア・アフリカなどで草の根の保健医療活動をしている民間団体(NGO)

1960年設立

使用済み切手運動

毎月第3日曜第2ミサ後 信徒ホールで切手の整理をしています

使用済みの切手運動によりJOCSの活動費の一部を支えています

原久子代表 (ルホ・池永)

1964年から

まわり5ミリ〜1センチほど切り取る

消し印は気にしないで だいたいいいい

国内・国外未使用切手の選別

あそびだまったら箱につめて!

使用済み切手の買取りは行っていません

西早稲田にある事務局に送る JOCS切手部

75円切手ボックス

2,000円

切手コレクター 古切手業者 切手商

地域保健医療の視点に立った協力

奨学金支給

自国で働くことを志す

保健医療従事者

ワーカートをこれらの国へ派遣

パキスタン インド ネパール 日本

カンボジア

タンザニア バングラデッシュ

カガンダ

少数民族 HIV/AIDS 感染者

紙の箱に種分け

封筒から切るととき 二重にセッちゃん

台紙ははかせない

キザキザ(目玉丁)は切り取らない

落合さん

真下さん

使用済み切手集めています!

カード類は少なめに!

教会売店横に置いてある

JOCS

医師・保健師・助産師 看護師・理学療法士

Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service

ために、運営委員会ニュースを発行して状況をお伝えし、検討委員会を作り、皆様の意見を聞いていくことを行います。信徒の皆さまの積極的な参加をお願いします。

ミサボランティアの活動を開始

教会に初めて来られた方に、ミサの時にアテンドしてご案内するミサボランティアが組織され、1月から活動を始めました。

ミサ曲の案内や分からないことにお答えし、ミサを分かってもらいたい、また教会を知ってもらいたいということで始めました。

教会という所に初めて来て困っている方を見かけたら、左記(写真)のミサボランティアの方に声をかけて頂き、ご紹介頂ければ幸いです。



ミサボランティアの方

松本亮英、三谷涼子、佐藤千代子、佐藤和子、平川ミエ子、水野貴久子さん

土曜学校クリスマス会

小一 島田 直人

12月12日、土曜学校でクリスマス会を行いました。

さいしよに、クリスマスのごミサをして、しんぶさまのおはなしをききました。そのあと、ケーキをたべてから、みんなとゲームをしました。こんかいのクリスマス会はインフルエンザがはやっていたのでおとまりはなしでした。おとまりができなくて少しざんねんでした。でも、ゲームがーばんたのしかつたです。またやりたいです。

小五 吉田 万莉

クリスマスは、お泊まりなのにインフルエンザ流行なので中止になりました。一日だけのクリスマス会になりました。最初は、ケーキとお菓子とシヤンパンを、グループごとになって食べ、プレゼント交換はお母さん達も入り、歌いながら、プレゼントを回しました。最後に、神父様も入ってゲームをしました。とっても、楽しいクリスマス会でした。

リーダー 本宮 智愛

今年のクリスマス会はインフルエンザが懸念され、お泊まりとケーキ作りが中止となつてしまいました。そのため、五時間半の間で、終業式、赦しの秘跡、ごミサ、そして市販のケーキを食べ、プレゼント交換とゲームをしました。例年より子ども人数が少なかつたため、今年は保護者もゲームやプレゼント交換に参加し、盛り上がりました。子ども達が楽しみにしていたお泊まりとケーキ作りがなくなつてしまつたため、楽しむことができないか不安な面もありましたが、笑顔で楽しんでく

成人式おめでとう!



新春の雰囲気の中かで新成人が祝福を受け、ミサ後新年会がおこなわれた。1月10日(日)



ワンポイント聖書

(175)

前島 誠

初めに、神は天と地を創造された。地は混沌であつて、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ」すると光があつた。

創世記1章1〜3

ユダヤの暦を開くと、今年(五七七〇年)に当たります。聖書によるとその紀元は、神が天地万物の創造を開始された年。そこから起算されたものでした。

もちろん実際の年数ではなく、ユダヤ教の伝承に支えられた固有のカレンダーによる算定と言えましょう。

ユダヤの正月は、西暦(キリスト教暦)の9月から10月にやってくる。われわれの

カレンダーよりも、三ヶ月ほど早く新年を迎えます(昨年は9月19日が元日)。正月の挨拶は「シャナ・トヴァ」(よい年を!)で、専用のカードも売られています。わたしの知る限り、日本ほど盛んではないようです。

さて引用の最初の語「初めに」にご注目下さい。ヘブライ語で「ベレシット」と書かれています。アルファベットの第二文字「B」で始まる語、なぜ第一文字の「A」を使わなかつたのでしょうか?

理由は、人間には最後まで隠されているからです。たとえお前が万巻の書を学んだとしても、「A」を知ることにはゆるされません。これを心せよ。というのです。

2010年度の町田教会の主な年間行事

1月1日(金)	新年のミサ
1月10日(日)	成人の祝い・新年会
2月17日(水)	灰の水曜日
2月27日(土)	ゆるしの秘蹟
2月28日(日)	ゆるしの秘蹟
3月14日(日)	信者総会
3月22日(月)	黙想会
4月1日(木)	聖木曜日(主の晩さん)
4月2日(金)	聖金曜日(主の受難)
4月3日(土)	復活徹夜祭
4月4日(日)	復活の主日・お祝い
6月6日(日)	初聖体
8月14日(土)	聖母被昇天祭・納涼祭(夕方)
	教会学校夏期キャンプ(未定)
	教会バザー(未定)
11月7日(日)	諸聖人・教会合同追悼ミサ
11月14日(日)	七五三祝福
11月23日(火・祝)	ボーイ・スカウト町田第一団 創立50周年記念行事
11月下旬~12月上旬	大掃除
12月4日(土)	ゆるしの秘蹟
12月5日(日)	ゆるしの秘蹟
12月24日(金)	主の降誕・夜半のミサ
12月25日(土)	主の降誕・日中のミサ

図書紹介

図書係 横塚千代子

神と私 人生の真実を求めて 遠藤周作 海竜社  
この町田教会にゆかりのある作家、遠藤周作。私は人生経験を重ねるうちに、彼の考え方に共感することが多くなった。彼はこの本の中で次のように書いている。  
「人間の心の中には善もあれば罪もある。しかしそれらすべてはそれぞれに深い意味がある。私の人生のすべて

のことは、そう『ひとつだつて無駄なものはない』と今にして思うことができる」  
彼は日本人の心にあうキリスト教を求め続けた。悔いたものを許し、愛してくれる母なる宗教を日本人は追い求めていると彼は言う。この本は遠藤氏の沢山の著作から山折哲雄氏の監修の下に、テーマ別に文章を抜粋してまとめられている。(宇治淳子)  
写真集 古教会への誘い 伊藤龍也撮影 現代書館  
日本の教会の中でも、これは関東甲信越地域の戦前に建てられた聖堂が紹介されている。都内では築地、神田、ク

ルトウルハイム、喜多見、近くは横浜山手、小田原、更に前橋、会津若松、高田に及ぶ壮麗な宇都宮の松ヶ峰からささやかな八王子泉町と変化に富む。信徒の集まりが教会なのだからとミサ中の撮影も多い。量敷きの聖堂で膝を突き合せて坐っている姿は、日本の教会らしくて微笑ましい。  
心にしみる聖書のことば  
(文) 井澤雅子  
(写真) 井澤邦輔 教友社  
菊名教会所属の著者は病人のお見舞になるようにと、聖書の言葉に短い文章と写真を添えて本にまとめられた。  
入院中は時間が沢山あるものの、身体が病んでいるのも弱ってしまうのか、思うように祈れなかった経験がある。祈りは神への賛美と感謝とお詫び、そして願い。この本はどのページも祈りと黙想の手引きになると思う。

信仰の里 鳥巢孝子  
編集 発行 畑田直純  
長崎県五島列島久賀島出身のシスター鳥巢は、去年秋に町田教会を訪問され、ウエルカムテーブルで懇談された。五島列島だけで五十の教会があり、明治時代に建立のものも多く、それぞれ信仰の里にふさわしい。久賀島には三つの教会があるが、過疎化が進んで廃墟となった教会の様

犠牲献金 中高生会	
12月6日	7,670円 (ペロニカ苑へ)
1月3日	15,825円 (ペロニカ苑へ)

子や、キリシタン伝承の信仰で育った日々の思い出が語られている。

信者動静

2009年12月~  
2010年1月

(個人情報のため、削除しています)

「雷の子」次号編集会議予定  
4月11日(日)09時30分  
於会議室